

# 土佐希望の家通信

2022年1月19日発行  
第100号  
発行/社会福祉法人 土佐希望の家  
発行責任者/理事長 門田 正坦

@: @

昨年、「土佐希望の家」にとりまして、兄弟施設とも言える「幡多希望の家」との数年来の法人合併の協議が整い、県から法人合併が認可されるという、大変大きな節目の年でもありました。それだけの施設の設置主体である「社会福祉法人 土佐希望の家」と「社会福祉法人 幡多福祉会」との合併によりまして、142床の土佐と51床の幡多と合わせて193床のベッド数を擁する、全国的にも最大規模の重症心身障害児者施設となりました。医師、看護師、生活支援員、その他関係スタッフの募集・確保などにあたっても、規模拡大によるスクールメリットが生かせるようになりまして、両施設が補完し合うことによりまして、安定した施設運営が可能となりますので、利用者・ご家族の皆様、これまで以上に安心してご利用いただける施設になると考えています。

さて、土佐希望の家におきましては、一昨年50周年を迎え、コロナの影響で発行が遅れましたが、昨年、50周年記念誌を関係の皆様にお送りさせていただきましたところ、多くの方から、高い評価をいただき、大変うれしく思っています。ご協力いただいた、ご利用者・ご家族、関係者の皆さん、また、企画・構成等にご尽力いただいた、高知新聞企業を始めとする関係の皆様方に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスへの対応で、一昨年来の手洗い、アルコール消毒、マスクの着用、3密を避けることから始まり、2回のワクチン接種まで、感染防止対策を余儀なくされたこの2年近くですが、昨年暮れから感染状況も落ち着き、穏やかに新年をお迎えのことと拝察いたします。

## 新年のごあいさつ

土佐希望の家  
理事長 門田 正坦



今年3月末に合併登記を行い、4月1日に合併後の新たな「社会福祉法人 土佐希望の家」が誕生いたしました。施設名の「土佐希望の家」と「幡多希望の家」はそのまま、定員や施設運営も、これまでと変わりませんが、運営主体が一つになることで、お互いの良い面を生かした運営を目指したいと考えていますので、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

昨年9月に、医療的ケア児とその家族への支援を拡充する法律が施行され、保育、学校、日常生活等における支援、医療的ケア児支援センターの設置などが、国・地方公共団体の責務となり、今後具体的な支援の拡充が行われるようになると思います。土佐希望の家では、この法律に先駆けて、昨年4月から「重症心身障害児者・医療的ケア児等支援センター「きぼうのわ」」を県から受託して、トータルアドバイザーを中心に、「コーディネート」を県から派遣して、医療的ケア児とそのご家族の相談支援に当たる事業を行っています。

この4月からは、医療職を新たに配置するなど、体制の強化が予定されており、新たな法律に基づくセンターとして、医療的ケア児とご家族からの相談に、これまで以上に適切に対応できるセンター機能を目指してまいります。

土佐と幡多は、医療的ケア児とその家族への支援拠点として、入所・通所、在宅支援などの事業に取り組んできましたが、合併を契機に更に発展させ、新たな法律による支援の主たる担い手として、様々なニーズに対応できる施設機能を目指してまいります。

新型コロナウイルスについては、オミクロン株の動向が気にかかるところで、土佐希望の家においては、昨年暮れに医療職から3回目のワクチン接種を行っています。2回目から6カ月以上経過する利用者の方々への接種も順次予定されますが、今後とも感染防止対策には万全を期してまいります。

そして、ご利用者・ご家族の皆様が安心して、直接面会ができる日が一日も早く戻ることを、また、本年が皆様にとりまじしい年でありまして、お祈り申し上げます。私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 3 病棟 SARA の詩



1月9日

春の山 櫻を恋 び 色 離  
梅は夢 の葉 離  
雨の音 離  
夏は葉 離  
秋は山 離  
冬は真っ白な 恋 離

画像: SARA 撮影

## 後援会より寄附

土佐希望の家50周年記念誌を送付させていただいた際に「何か希望の家に寄附したい。」とお申し出がありました。コロナ過のため、十分な打ち合わせをする事ができず、寄付金をいただきました。施設のため、利用者のために使用させていただきます。職員一同、お礼申し上げます。



「 遊 び 来 た 人 々  
3 棟 内 車 様  
展 「 猿 」 費 !!  
「 僕 が 番 間 を 使 っ て 勢 づ づ 離 だ 猿  
と 言 う 大 団 賞 離  
絵 が 手 に 仕 離 良 離  
さ ら 言 っ て 嬉 離  
い 飾 を 作 っ て 離 皆 分 、 夢 の  
良



- 【寄附】  
北村 忠司  
土佐希望の家 後援会  
岡部 三津猪  
長 博智  
泉 佐智  
中澤 千砂  
大徳地区社会福祉協議会  
高知友の会  
宇野 薫  
宇野 久仁夫  
(有) 大前田商店  
福原 公二  
山磨 康子  
南国協会  
フルーベル館  
田所恭子  
高野プロパン  
国際ソロプチミスト高知100  
(敬称略)

【編集後記】  
新しい年を迎えました。  
本年もどうぞよろしく願っています。  
土佐希望の家通信も今まで以上に内容を充実し、皆さんに施設の取り組みや利用者さんの様子をわかりやすくお伝えできるように、編集委員一同頑張っております。  
また、知りたい内容や情報がありましたら、調べて掲載させていただきますと思いますので、たくさんご意見をお待ちしています。





# 厨房便り

## お正月の七草粥

クリスマスにはケーキ・オムライスにエビフライ。大晦日には年越しそば、元旦にはおせち料理で、土佐希望の家でも年末年始は胃のびっくりするような行事食が続きます。



そして、そんな疲れた胃を休める七草がゆ。

七草がゆは邪気を払い、万病を防ぐという素晴らしい習わしです。お粥なので消化も良く、野菜の解毒作用で体のリセットのきっかけを作ってくれます。地元高知で取れた七草がたっぷり入ったお粥。やさしく、ホッとするような味に仕上がっています。



クリスマスは鶏の足・お正月のお餅・節分ののり巻き...施設の特性にて、希望があっても、なかなか提供が難しい料理も多いですが、今年も、沢山の「おいしかったよ」が聞けるよう、美味しく安全な食事を提供していきたいと思えます。

栄養科主任 柏井沙織

## 【新型コロナウイルスに 対する取り組み③(終)】

### ～新たな生活様式～

新型コロナウイルス感染症の感染状況は、新しい生活習慣が定着してきたことやワクチン接種も進んできたこともあり、全国的に落ち着いてきています。

高知県の新規感染者は減少しており、当センターでも面会方法についての協議・検討を繰り返し、11月時点では直接面会が可能となっています。短時間ではありますが、直接会って会話してもらうことができるようになり、利用者さんや家族さんの笑顔を見ることができて本当に嬉しく思います。

利用者さんの中には2回目のワクチン接種が終了したので、これで感染しなくなったと思いい、「買い物外出したい、〇〇さんに会いに行きたい。」など、やりたいことを沢山訴えてきます。また家族さんからは「もう少し面会時間や回数を増やしてほしい。」という意見が聞かれます。利用者さんや家族さんの思いに少しでも応えられるように、これからも協議・検討を行い、お気持ちに添えるように努めていきたいと思えます。

今後は第6波やインフルエンザの流行も懸念されますが、日々感染状況を確認しながら、快適な清潔環境が提供できるように、引き続き感染予防対策に取り組んでいきます。

ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力、ご理解のほどよろしくお願い致します。



3病棟 看護師長 酒井いつ子

## ～わたしのお仕事～

### 1病棟生活支援員



1病棟は東棟と西棟に分かれて39名の利用者さんが生活しています。日勤の職員は10時までに時間差で出勤し、10時に日勤者が揃ったところで1日のスケジュールを確認し、その後、西棟、東棟に分かれて利用者さんのケアを行います。排泄介助、水分介助、身だしなみ、環境整備などを看護師と一緒にやります。これらが終われば、朝の会、散歩、爪切り、シーツ交換など、曜日ごとに設定した活動を行います。朝の会では一人ひとりの名前を呼び、手を取り、顔の表情から体調に変化がないかを見ながらコミュニケーションを取って、利用者さんに1日のスケジュールを発表します。最後に、元氣が出るような歌や季節の歌をみんなで歌ったら、その後はお楽しみのお食事です。トイレ誘導、手洗いの後、朝食の準備をします。食堂に配膳車が運ばれてくるので、待ちきれない利用者さんが寄ってきて「今日は何のご飯かな」と首を長く伸ばして、時には手を伸ばして「早くもあり、職員さんの「ちよっと待ってください」の音があちこちで飛び交うことも。配膳が始まり、利用者さんの「いただきます」の挨拶で食事の始まりです。「1病棟は食べるスピードが早い」と思っている人もいますが、最近では年齢や体調からゆとりと食べる人への介助を要する人が多くなってきています。

朝食後も曜日ごとに設定した活動を行います。入浴、行事、外出時にはお風呂テレビを観てのんびりと過ごされる利用者さんのそばで個別支援を行うこともあります。お茶の時間の介助後、更衣を行います。更衣後は電子カルテへの記録付け、洗濯物出し、コップの洗い上げ、夕食時の準備などを手分けしてとんとん進めていきます。そうしているうちに夕食の時間が近付き、風呂と同じように利用者さんのケアを行い、食後の掃除、歯ブラシ介助、洗い物をして終業になります。

コロナ感染症が騒がれ始めて3回目の冬が来ました。早く終息して以前のように自由に面会ができ、ご家族と一緒に外出や外泊ができる生活に戻ってきて欲しいと願っています。

1病棟 生活支援員 武久京子

## 【虐待防止・いいケアしよう③(終)】

虐待防止委員会、いいケアしようプロジェクト会、共に月1回開催しています。コロナ禍の中、第三者・有識者の方とはメールでしかコンタクトがありませんが、色々報告したり、相談したりして助言をいただいています。

その有識者の方からいただいた言葉で印象に残ったものがあります。一つは、権利侵害はどこでも、いつでも起こること、もう一つは、施設の常識は一般社会から見ると非常識なことが多いということです。また、新聞紙上での虐待事件を目にすると、非常に悲しくなりますが、その虐待に至る背景に「専門性の欠如」「密室性」「人間関係」「ガバナンス(統治・支配・管理)」があるということも学び気付くことができました。井の中の蛙ではありませんが、有識者・第三者の外部の方の意見を聞くことがいかに大切かと思いました。そういう点で考えると、実習生も大変ありがたい存在です。実習最後の反省会の資料で「職員への支援や援助している場面面で「自分だったら嫌だ」と思ったことはありますか？」との設問に、シビアな意見をいただくことがあります。第三者から見たケアが適切に行われているかということも大切な視点であります。

不適切なケアが知らず知らずに積み重なることで虐待につながる。これは紛れもない事実だと思います。

情性のケアでなく、専門職としてのいいケアを目指し、一期一会のケアを行うことで、希望の家は良いところだなあと日々感じていただけるような施設を目指していきたいと思えます。

看護生活支援副部長 中西純







2病棟でお世話になっている山本やしおの妹です。幼少時代は、両親と祖母、年子の姉私妹と5歳下弟の姉中心の賑やかな7人家族でした。両親は姉を特別視することなく、4人の子ともほとんど平等。何をすることも一緒でした。クリスマスプレゼントも、玩具や着物、本などはいつもお揃いの贈り物が届きました。しかし、私が9歳の12月25日の朝、サンタさんからのプレゼントはリクエストの自転車で、庭に3台しかありませんでした。初めて姉だけ違った贈り物でした。この日までは、姉はいつか完治すると漠然と思っていましたが、この時から、この日までの身体障害者だという事実をしっかりと認識したように記憶しています。治らない振り返って思い出してみると、姉の生活は、いつも両親と祖母の介助付で、歩行器の練習や足に器具を装着した立位のリハビリ。トイレもパーを掴み一苦労。不自由な手にスプーンを装着して食事。足の砂袋の重しをかけて座位姿勢の保護。移動は、ハイハイか車イス。ベッドに寝ている時でも寝返りもままならず、てんかん発作も突然襲ってくるという大変な毎日でした。就学時には、独りで子鹿園に入園して毎日曜日に家族で面会に行っていた時代もありました。

このように、24時間365日、まるでアスリートのようにならざるに弱音を吐かず一生懸命頑張っている姉の生き様に、私は尊敬の念を抱き、激励され、成長してきた気がします。だからでしょうか、自国日本開催のパラリンピック。いつもより長時間、より多種目のパラスポーツを観戦し、勝敗に関わらず多大な感銘を受け号泣した昨夏でした。オリリンピックより感動したのは、私だけだったのでしょうか。そしてもうひとつ、幼い頃から現在も尚、ズーッと変わらない一点の曇りもない澄んだ瞳を見つめる心が安らぎます。昔から、その時々喜怒哀楽な出来事を姉の優しいまなざしに話しかけ、その度に心が癒され、特に傷心時には、聖母マリア様のごとく受けとめてもらい救われてきました。だから、私は10代の頃より姉のような「障害者」の方々を、「スペシャリスト」とリスペクトして生きてきました。

前置きが長くなりました。姉は32年前に幾度かの通所時代を経て、H26年に希望の家に入所しお世話になっております。入所当時、淋しくて辛くないだろうかという家族の心配は取り越し苦労で、半年後のお正月の帰省は、施設で過ごしたいと拒否される始末。会いたくて切ない想いを募らせているのは私の方だけ!?とショックを受けたことでした。それほどまでも、希望の家の生活が心地良く快適で楽しく、皆様にあたたく接して頂いている姉は、本当に幸せ者だと心からありがたく感謝深謝しております。そして、入所者の皆様も姉同様、私にとっての「スペシャリスト」。いつも勇氣と癒しを頂いて感謝しています。ありがとうございます。最後に、人生を教えてください、心の癒しを与えてくれた、やしおお姉ちゃん。私マゴのお姉ちゃんになってくれてありがとう。これからも大好きな希望の家でワガママはそこそこ、あまり迷惑をかけず、いつまでも笑顔で穏やかに暮らして下さいね。皆様、何卒よろしくお願致します。

## 家族の窓

2病棟 山本やしお様



## 各病棟 行事写真



各病棟でたくさんの行事がありました♪  
花火大会やトロピカルカフェ🍹よさこい  
ハロウィン🎃外出ができなくても楽しみは  
いっぱいです(^^)/

サンタだらけのクリスマス会♪  
どの病棟にもサンタが登場\*  
プレゼントを配ってくれました🎁

TRICK OR TREAT

みんなの所にもサンタさんは来ましたか?







# 祝 成人式

上岡 幸乃様 (2病棟) ・ 中平 翔様 高芝 楨佑様 (通所)

2病棟  
成人式



※撮影時のみマスクを外しています

通所事業所  
成人式



通所保護者会代表の祝辞に、胸が打たれましたのでご紹介させていただきます

通所事業所 保護者会代表より祝辞

新成人おめでとうございます。ご家族の皆様、深い愛情でお子様を守り支え続けて迎えられた今日この日。心よりお喜び申し上げます。この20年間ご本人ご家族様ともに本当によく頑張ってきてくれましたね。

私たちの子育ては不安な事、心配な事、向き合っていかなければならない事がたくさんあります。その分たくさんの方に支えられて助けられてここまで来ています。本当に有難いです。感謝の想いはつきません。ですが、その感謝とは別に自分の気持ちに折り合いをつけるという苦勞もこの20年間はたくさんあったのではないのでしょうか。

私自身、未だに「誰かを羨ましいと思う気持ち」が時々顔を覗かせます。皆と同じ幸せを味わえないという現実時は時折淋しさを連れてきます。そんな時は一人で「おめでとう。良かったね」と口に出してみます。それだけで淋しさが和らぎます。

これから大人として成長されていくお二人。その成長を見守られていくご家族。不安と安堵を繰り返しながらのその歩みはこの先ずっと皆様の心を支え、暖めてくれるのだと思います。

お二人のこれからが豊かで愛情と笑顔に満ちた日々でありますように心からお祈りし、お祝いの詞とさせていただきます。

通所保護者会代表 鍵山 三紀



令和3年2月13日、2病棟東にご入所されていた田内優海様をご逝去されました。

昨年夏、初盆を迎えられ、優海様のお姉様である田内樹音様より土佐希望の家職員宛にお手紙をいただきましたのでご紹介いたします。

## 土佐希望の家の皆様へ

10年間も優海様がお世話になりました。2歳半ぐらいにこの施設に来てから、今までたくさん思い出いっぱい場所まで最後の瞬間まで先生や看護師さんに温かい眼差しで見送ってもらい本当に幸せだと思えます。

会うたびに「ゆうちゃん、可愛いね・・・!!」とか「ゆうみさーん!!」と声を掛けに来てくれるのを見て、優海はとても愛されているなあって心が温かくなっていました。私にも声をかけてくれたりしてくれ、たことがすごく嬉しかったです。皆様がたくさん優海と関わりを増やしてくれたから常にニコニコで元気いっぱいゆうちゃんがあつたと思います。歌とかも聴かせてくれたり、楽器で遊んでみたり、プールに入っちゃったり、全部がかげがえのない思い出として優海の心の中にちゃんと刻まれていると思います。

ゆうちゃんを家族のような温かさで迎えてくれたこの施設には感謝してもしきれません。11歳で旅立ってはしまいましたが、優海の世界一かわいい笑顔はずっと残り続けると思います。

本当にお世話になりました。ありがとうございます。

優海の姉より

このたび、樹音さんが優海さんのことを記した作文が小砂丘賞(ささおかしょう)最優秀賞を受賞されました。今後、高知新聞に掲載される予定です。

## お悔やみ

- |      |       |          |        |
|------|-------|----------|--------|
| 2病棟東 | 平田彩奈様 | 9/23 逝去  | 享年 17歳 |
| 2病棟東 | 今井順子様 | 10/1 逝去  | 享年 81歳 |
| 3病棟東 | 上村立雄様 | 11/22 逝去 | 享年 75歳 |
| 3病棟東 | 松田慶吾様 | 12/12 逝去 | 享年 77歳 |

いつも笑顔をありがとうございました。  
天国でも私たちを優しく見守ってくださいね。





祭



夏祭り

1 病棟

1 病棟では8月に夏祭り、10月に花火をしました。夏祭りではダーツや魚釣りゲームをして綿菓子や駄菓子を食べて楽しみました。10月の花火は18:30から始めましたが、辺りは暗く、十分花火を楽しめました。早く盛大な行事をできるようになる日が来ることを心待ちにしています。(沖大輔生活支援員)



3 病棟では、毎月誕生者のポスターをケース担当が作成し飾られます。利用者様の好きな物を題材に、担当がアイデアを膨らませ楽しいポスターが仕上がります。(山下薫生活支援員)

3 病棟



「羊が猿を産んだ」の文章は半年のお母様が申年に慶吾さんを出産されたため、お母様の口癖であり慶吾さんもお存命によく言われていた言葉です。



9月19日によさこい祭りと花火大会が開催されました。午前中は病棟に、たらこさんとゆかいな仲間たちがよさこいを踊りに来てくれました♪聴きなじみのある音楽が病棟に流れ、皆さんのとても素敵な笑顔が見られました。午後はベランダの広場で花火大会前日まで台風の影響で天気が心配されていましたが、皆さんの楽しみにしている気持ちが太陽に届いたのか見事に晴れました。少し太陽の光がまぶしすぎた時間帯もありましたがとても綺麗でした。

(北岡亜里沙生活支援員)



2 病棟



職員の扮装にも  
ご注目!!



通所



ぴったり賞 3名で決勝レース!!  
今年も盛り上がりました!!



大盛況だった通所ロードレース大会を今年も行いました。今年是新ルールでゴール後に自己申告タイムより早いか、遅いかのヘルプシステムを導入しました。時間を利用者と職員が一緒に考えて、何秒、何十秒、何分、早くするのか、遅くするのかと、一生懸命考え、結果、皆さんも大盛り上がりになりました。(小崎誠也生活支援員)



# 「Go To きぼうへ！」

## みんなの「ハロウィンパレード2021」

毎年10月に、希望の家祭という施設外から参加もあるお祭りがありますが、新型コロナウイルス感染症の流行のため中止となっています。昨年からせめて施設内で利用者さんに楽しみを!!と、代替え行事! 第2弾!!

**Go!! To!!! ハロウィン!!!**

ジャック・ランタンが、希望の家を乗っ取った!  
ジャックを倒して希望の家を取り戻そう!

鞆 (願) を書け  
兼お札を持  
夢を叶え 行こう!!

が 後  
!! 居  
夢

巫女さん達が  
厄払いしてくれた(^^)

こっちは真子が!!

時空列車へようこそ!  
夢を書いた切符でご乗車ください! 終点まで直行です(^^)/

改札の向こうは  
不思議な世界でした...

触ってみようコーナー!

車掌さんと記念撮影!

操縦席  
かっこいい!!

鞆を挿入いたします

切符を挿入いたします



無事ジャックを封印し、希望の家を取り戻しました!  
切符兼お札には、「家族に会いたい」「美味しいものを食べに行きたい」「コンサートに行きたい」など、たくさんの希望が書かれていました。  
早くコロナが終息しますように.....



行事担当の皆様、制作準備に本番にお疲れさまでした!!  
【素敵な笑顔】であふれましたね! 皆の笑顔で元気になれる!!  
**コロナになんて負けないゾ!!**